

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 4月 11日

【評価実施概要】

事業所番号	0174600577		
法人名	株式会社アルムシステム		
事業所名	グループホームふれあいみなみ野館		
所在地	帯広市西17条南41丁目4丁目14番 (電 話) 0155-49-6330		
評価機関名	北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成20年2月14日	評価確定日	平成20年4月11日

【情報提供票より】(20年1月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)15年 5月 31日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 6人, 非常勤 3人, 常勤換算	5.4人

(2) 建物概要

建物構造	木造		
	2階建ての	1~2	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	29,000~38,000 円	その他の経費(月額)	24,000~29,300 円
敷 金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 700 円		

(4) 利用者の概要(1月30日現在)

利用者人数	8名	男性 2名	女性 6名
要介護1	1名	要介護2	5名
要介護3	1名	要介護4	1名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均 78歳	最低 58歳	最高 88歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	北斗病院・なりた歯科クリニック
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は帯広駅から程近く、周辺には病院・消防署等があるなど恵まれた環境に立地している。居室は1部屋・2部屋・2部屋押入れ付きなどが選べ、それぞれトイレや洗面台が設置されており、利用者が過ごしやすいよう配慮している。職員は利用者の思いを尊重し、家族とのコミュニケーションも大切にしながら熱意を持って日々のケアサービスに取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での課題であった「運営理念の明示」について、適切な位置に掲示したり、「事業所便り」に関しては定期的に発行するなど、改善に取り組んでいる。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 常勤職員で協議し、自己評価を作成している。また、職員等の気付きを日々のケアサービスに反映させるよう努めている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	利用者家族・地域住民・地域包括支援センター職員等を構成員とし、2ヶ月に1度運営推進会議を開催している。会議では事業所の運営状況・利用者の状態・自己評価や外部評価の結果等について報告し、意見交換を行い日々のケアサービスに活かしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	重要事項説明書に内部・外部の苦情相談窓口を明示し、家族に説明している。また、意見等を受けた場合は職員会議で協議し、速やかに対応するとともに、詳細を家族に伝えている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、地域の行事に参加している。また、事業所便りを地域にも配布し、事業所行事への近隣住民の参加を呼びかけるなど、地域との連携を図っている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念をつくりあげ、地域において利用者がその人らしく生活できるよう、支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	会議やカンファレンスで話し合い、理念を共有し、日々その実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、町内の行事に参加している。また、事業所便りを地域にも配布し、事業所行事への参加を呼びかけている。	○	事業所の行事を週末に開催するなど工夫し、今後も地域住民への行事参加を呼びかけることが期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者が中心となり、常勤職員で話し合い自己評価に取り組んでいる。また、会議で気付き等を検討し、改善に向けて取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、運営推進会議を開催している。会議では、利用者から受けた意見・要望・苦情等の対応方法等について報告し、意見交換を行っている。	○	運営推進会議においての意見をより事業所の運営に反映できるよう、構成員について検討することが期待される。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	必要に応じて市に出向き、指導やアドバイス等を受け、ともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1度事業所便りを発行し、利用者の状況や職員の異動等について、家族に報告している。また、金銭管理については家族の来訪時に伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に内部・外部の苦情相談窓口を明示し、家族に説明している。家族から意見等を受けた場合は、職員間で協議し、日々のケアサービスに反映させている。また、運営推進会議においても対応方法等について報告し、意見交換を行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動等は最小限となるよう努め、利用者へのダメージを防ぐよう配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は内部・外部研修に参加する機会が多くある。また、その他の職員は年2回の内部研修や外部研修があるごとに、順番に受講している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が中心となって同業者との交流を図り、職員会議で結果を報告している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に利用者家族に十分に説明し、また希望に応じて本人に体験利用してもらい、職員や他の利用者との交流する機会を設け、利用者が事業所の雰囲気馴染んでからの入居となるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の「できること」「できないこと」を把握し、力に応じて一緒に作業しながら、互いに支え合う関係を築いている。また、ともに過ごす中で利用者から学ぶことが多く、利用者の思いに共感しながら支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者との関わり合いや言動等から、一人ひとりの思いや意向の把握に努め、本人本位となるよう支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本人・家族の意見を取り入れ、全職員で協議し、柔軟性のある介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の健康状態に変化があった場合は、利用者・家族・医師とも相談し、職員間で話し合いながら介護計画の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者・家族の希望に応じ、通院時の送迎や買い物・理美容室への付き添いなど、柔軟な支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者それぞれのかかりつけ医への受診支援を行っている。また、看護師を配置し、利用者の日常の健康管理を行うとともに、通院記録を作成するなど、適切な医療を受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応について、指針を定めており、家族や協力医療機関と連携を取りながら適切に対応できるよう努めている。また、終末期に向けた指針について、現在検討中である。	○	終末期に向けた指針を定め、利用者本人・家族・医師等と話し合い、情報を共有しながら適切に対応することが期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシー保護の徹底について職員会議で話し合い、意識向上に努めている。また、利用者の誇りや自尊心を損ねることのない声かけを心がけており、適切に対応している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の個性を尊重し、一人ひとりのペースを大切に支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力に応じ、食事の準備・調理・食器洗い等を職員と一緒にやっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に応じた入浴支援を行い、寛いで入浴できるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴や家族から収集した情報をもとに、利用者ができることを把握し、一人ひとりの力に応じた役割の支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出行事の年間計画を立てたり、買い物や外食など利用者の希望に応じた外出支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	防犯上の理由から夜間は施錠しているが、日中は鍵をかけないケアに取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に防災訓練を実施し、町内会にも参加を呼びかけている。	○	緊急時に協力が得られるよう地域に働きかけるとともに、地域住民の防災訓練への参加を引き続き呼びかけることが期待される。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者個別の食事摂取表を作成し、職員間で情報を共有している。また、旬の食材を採り入れたり、利用者の嗜好を考慮するなど、食事が楽しみなものになるよう支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は季節や行事に合わせた花や装飾品を飾るなど、生活感や季節感を感じられるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者が使い慣れた馴染みの家具・仏壇等を持ち込んでおり、本人が安心して過ごせるよう工夫している。		

※  は、重点項目。